

令和5年度「さがみはら生物多様性シンポジウム」の質問への回答

	質問	回答
1	生物が進化することが外来種とすみ分けすることによって停滞しないか疑問を持ちました。	進化は環境への適応により起こるものなので、外来種がいた場合には、外来種ありきの環境に適応する進化が生じるのだと思います。進化が停滞するというのは、動物が変化しなくても良い状況ということなので、安定した環境・生物関係性だと停滞する、と考えられます。新しく外来種が入ってきた場合には、その変化に適応できない種は滅び、適応できた種は進化した、と考えられると思います。（加瀬先生）
2	野生化したペットもいずれ多様性のうちに入るのでしょうか。	イヌやネコも含めて、ペットだったものが野生化した場合の多くが「外来種」として扱われます。外来種であっても、長年その生態系の中に位置付けられていることにより、その外来種を含む新しい生態系ができる、という考え方もあります。その場合は生物多様性の一部に入るのかもしれませんが、外来種の存在により生態系が大きく変化し、構成している生物種や遺伝的多様性が減少してしまう可能性があります。また、ペットを野外に放つことは、飼育の責任を放棄していることとなりますので、生物多様性の問題だけでなく飼育者の責任問題としても、防止しなくてははいけません。（加瀬先生）
3	丹沢のシカの食害が植生を損なっているように、多様性保全といっても特定の種の生息数が増えすぎると問題が生じる。種類と生息数の質・量の問題をどう考えるのか。	おっしゃる通り生物種ごとに質・量の許容範囲というのがあるかと思います。その範囲は、同じ生物種であっても生息環境により異なることが想像されます。実際には、生態系のバランスが崩れたり、何か問題が発生して初めて「どの動物の個体数が多くなり過ぎていることが原因だ」と分かるため、問題が起こる前に予測をして予防できるケースは少ないです。そのため、この環境ならこの動物は〇〇頭いても良いと画一的に示すことはとても難しいです。例えばシカの樹皮剥ぎによる樹木の枯死問題についても、シカの捕獲や食べられないように木を防護するなどの対策を進めながら、実際に樹皮剥ぎがどれだけ減るかを調査して、どの程度のシカ生息密度であれば許容できるのか、を探りながら進めている状況です。他のケースについても同様に、計画を立て、対策を実施し、それを評価してフィードバックしながら適正な状態を目指すという「順応的管理」を行なっています。（加瀬先生）

4	高校での活動はネットでも公表されているのでしょうか？	新聞等で取り上げていただいたものなどが公表されています。（光明学園相模原高校） 「相模原弥栄高校のHP>部活動>サイエンス部」に掲載の場所があります。 現在作成中ですので、そちらで部活動の実績や活動の様子などを確認して頂ければと思います。 研究内容は、ヤマビル班は来年度に岐阜で開催されるぎふ総文（第48回全国高等学校総合文化祭）で研究発表します。（相模原弥栄高校）
5	クリハラリスの拡大について、人間生活への影響はなにか出ていますか。	農作物への食害や家屋への営巣、電線が齧られることで停電する事案などがあります。（光明学園相模原高校）
6	クリハラリスは相模原市で確認されたことはありますか。町田側は大丈夫ですか？	相模原市内では、数件ありますが数は少ないようです。町田での目撃情報もあります。（光明学園相模原高校）
7	城山付近でリスを見ましたが、クリハラリスの可能性は考えられますか。	クリハラリスの可能性は低いと思いますが、油断はできません。（光明学園相模原高校）
8	クリハラリスは木もれびの森でも発見されましたか。	木もれびの森での目撃情報はありません。（光明学園相模原高校）
9	クリハラリスを観察する場合、見られる時間帯はいつ頃でしょうか。	活動は早朝と夕方に活発になります。（光明学園相模原高校）
10	クリハラリスをどのような場所で見つけられますか。	樹上性のリスですので、木の高い位置になります。（光明学園相模原高校）
11	クリハラリスの頭蓋骨の骨格標本は集めるのは何故ですか？	頭蓋骨標本を収集し、部位を計測することで地域による違いなどのデータを得ることが出来ます。また、頭蓋骨以外の部位も標本として残すことで、調査研究の証拠となります。（光明学園相模原高校）